

2024年度 春季 ICYE Japan海外ボランティアプログラム 参加報告書



学童



GLIDE教会にて



FoodBank

1. 参加目的
今回のプログラムに参加したきっかけとなったものは色々ありますが、その中で一番の理由は最近アメリカに興味ができたからです。アメリカのサンフランシスコにホームレスと経済的貧困で苦しむ人が急増している、というニュースを偶然ネットで見たことがあります。昔からアメリカに行きたい、ボランティア活動をしたい、という気持ちを持っていたため、明治大学のホームページでICYEボランティアプログラムを見た時、これは参加するべきだと思いました。参加したら貴重な経験もできて、アメリカの初体験ができと思い、申し込むようになりました。このプログラムに参加することでアメリカという国を体験するようになり、やりがいがある活動をしたいと思って、それがきっかけになりました。
2. ボランティア実習内容について
サンフランシスコボランティア活動で私は、GLIDE教会での食事配り、Food Bankでの食料品わけ、学童ボランティア活動などを行いました。そのほかには「社会人交流会」という、アメリカで就職した日本人の方の話を聞く場にも参加し、アドバイスを聞くことができました。GLIDE教会では貧しい人々を対象に食事を提供し、私の役割は食券を確認したり、掃除をすることでした。そして、Food Bankでの自分の仕事は、箱に食料品を分けて入れたり、片付けたりすることでした。学童では、学校が終わって親を待っている子供を対象に世話をしあげることでした。一緒にキャッチボールをしたり、宿題をしたりしながら時間を過ごしました。
3. プログラムを通して学んだこと
このボランティアプログラムに参加したことで、本当に色々なものを学ぶことができました。まず、一番大切にするべきの学びは「世界を見る視野」が広がった、ということだと思います。私は今までマレーシアと日本でしか住んだことがないので、世界を見る視野が狭いと感じていました。しかし、このプログラムを通じてアメリカに行くことができ、日付変更線を越える経験で、世界を見る視野が広がりました。アメリカの経済事情を実際にみることができ、その結果、ホームレスを見ながら、そこに興味ができ、ニュースを見ながら勉強することもできました。どうやったらこのような現象を解決することができるのか、について真剣に考えるきっかけになりました。
4. ボランティアプログラムを終えての感想
今回、アメリカでホームレス支援、フードバンク、そして学童でのボランティア活動に参加する機会を得ました。言語や文化の違いに不安もありましたが、多くの人との出会いや体験を通じて、多くのことを学ぶことができました。ホームレス支援では、食事を配ったりする作業を通じて、日々の生活がどれほど大変であるかを実感しました。直接「ありがとう」と言われた時には、心からこの活動に参加してよかったと思いました。フードバンクでは、食品の仕分けや箱詰めを行いました。チームで効率よく作業することの大切さも学びました。学童では、子どもたちと一緒に遊んだり、宿題を手伝ったりする中で、言葉の壁を超えて通じ合えることを実感しました。子どもたちの笑顔に元気をもらい、自分自身も前向きな気持ちになることができました。このボランティア活動を通して、人と人とのつながりの大切さ、そして「助け合うこと」の本当の意味を考えさせられました。